

平成27年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた 施策の方向性
					指標名等	現状値 （基準値）	H26年度	H27年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）	決算額 （千円）	金額 （千円）	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由および課題	
I-1-(2)-⑤ 子どもの 特性を伸 ばす教育 の充実	1	博物館セカンド スクール事業	自然史・ 歴史博 物館普及課	博物館を第二の学校と 位置づけ、修学旅行・ 社会見学など学校教育 の一環として、子ども たちの博物館利用の促 進を図るものである。	学校団体誘致数	799団体 (H15年 度)	目標 1,000 団体 実績 1,263 団体 達成率 126.3 %	1,000 団体 1,316 団体 131.6 %	1,000団体 以上 (毎年度)	2,084	1,308	1,939	16,075	課長 0.05 人 係長 0.50 人 職員 1.40 人	順調	修学旅行の誘致活動を積極 的に行った結果、その効果も あり、目標達成率の増加と なったため、「順調」判断。	順調	【評価理由】 修学旅行の誘致や、入館者 数が目標を達成しており「順 調」と判断。 【課題】 学校団体の来館者の増に繋 がる取り組みを行うことで、 これまで以上に子どもたちが 文化に接する機会を提供する 必要がある。	引き続き、子どもたちによる 博物館等の利用促進を図る 事業を展開していく。	
	2	文学館普及研究 費	文学館	北九州市ゆかりの文学 者の業績を企画展等で 紹介するとともに、本 市の文芸の振興に功績 のあった文学者を市内 外に発信する。	企画展の入館者数 (単位：人)	10,741人 (H23年 度)	目標 22,000 人 実績 26,564 人 達成率 120.7 %	22,000 人 23,436 人 106.5 %	22,000人 (H27年 度)	23,125	22,919	20,218	12,625	課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 0.25 人	順調	企画展開催回数(目標：4 回、実績5回)と入館者数と もに目標を上回ったため「順 調」と判断。				
I-1-(3)-② 家庭教育 支援の充 実	3	家庭・地域・学 校パートナー シップ事業	生涯学 習課	家庭教育学級や子育てサ ポーターなどの活動を通 じて、保護者の不安を軽 減するため、関係機関や 関係部局と連携しなが ら、情報提供、啓発活動 を行い、保護者が家庭教 育について学ぶ機会の充 実、子どもの基本的生活 習慣定着への理解を促す ための情報提供、啓発活 動を進める。 それぞれの地域の特色を 生かし、家庭・地域・学 校が連携して、子どもた ちに様々な体験活動や世 代間交流の機会を提供 し、地域ぐるみで子ども を見守り育てる意識を高 め、地域全体で子どもの 健全育成に取り組む機運 を醸成する。	朝食を毎日「食 べている」「どち らかといえば食 べている」と回答した 児童生徒の割合	小：93.0% 中：91.9% (H25年 度)	目標 小：95.0% 中：93.0% 実績 小：92.9% 中：91.6% 達成率 小：97.7% 中：98.4%	小：97% 中：95% 小：92.0% 中：90.5%	小：100% 中：100% (H30年 度)	10,612	8,572	8,632	9,150	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.80 人	順調	朝食を毎日食べている児童 の割合はやや下がっているも の、家庭教育学級開設数 は、去年と比較し17箇所多い 344箇所となり、目標の340箇 所を達成した。子育てサポー ター登録者も去年と比較し25 人多い1,391人となり、目標 の1,000人を上回ることが出 来た。以上を踏まえて「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 保育所、幼稚園、小学校、 中学校、特別支援学校の保護 者を対象に家庭教育学級や、 幼児の保護者を対象とした家 庭教育講座を行い、家庭の教 育力の向上を図った。また、 「のびのび交流会」などの交 流会を通して全ての子育てサ ポーターを対象に、事例発表 や意見交換会を開催し今後の 活動の充実につなげた。どち らの事業とも目標値を達成し ているため「順調」と判断。 【課題】 家庭教育に関心のある保護 者とそうでない保護者の二極 化が見られるため、小学校入 学前の早い段階から、より多 くの保護者に家庭教育の重要 性を啓発する必要がある。	「家庭教育学級」は、今後 も、より多くの保護者の参加 を目指した学級を開催すると ともに、幼児期の保護者への 啓発を継続する。「子育てサ ポーター」では、市民セン ターにおいて子育てサポー ターが活躍できる講座を開設 するなど、今後も関係課と協 議し、子育てサポーターの活 用策について具体化を目指し ていく。	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性					
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題						
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	4	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組み機運を醸成する。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	現状値	目標	実績	達成率	中期目標	10,612	8,572	8,632	9,150	課長	0.10人	順調	朝食を毎日食べている児童の割合はやや下がっているものの、家庭教育学級開設数は、去年と比較し17箇所多い344箇所となり、目標の340箇所を達成した。子育てサポーター登録者も去年と比較し25人多い1,391人となり、目標の1,000人を上回ることが出来た。以上を踏まえて「順調」と判断。	順調	【評価理由】 保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の保護者を対象に家庭教育学級や、幼児の保護者を対象とした家庭教育講座を行い、家庭の教育力の向上を図った。また、「のびのび交流会」などの交流会を通して全ての子育てサポーターを対象に、事例発表や意見交換会を開催し今後の活動の充実につなげた。どちらの事業とも目標値を達成しているため「順調」と判断。 【課題】 家庭教育に関心のある保護者とそうでない保護者の二極化が見られるため、小学校入学前の早い段階から、より多くの保護者に家庭教育の重要性を啓発する必要がある。	「家庭教育学級」は、今後も、より多くの保護者の参加を目指した学級を開催するとともに、幼児期の保護者への啓発を継続する。「子育てサポーター」では、市民センターにおいて子育てサポーターが活躍できる講座を開発するなど、今後も関係課と協議し、子育てサポーターの活用策について具体化を目指していく。				
						小: 93.0% 中: 91.9% (H25年度)	小: 95.0% 中: 93.0%	小: 92.9% 中: 91.6%	小: 92.0% 中: 90.5%	小: 100% 中: 100% (H30年度)					小: 97.7% 中: 98.4%							小: 94.8% 中: 95.2%	係長	0.20人	0.80人
						小: 97.7% 中: 98.4%	小: 94.8% 中: 95.2%	職員																	
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、生涯学習市民講座等の手法を活用して意見交換の場を設け、これまで市民センターをあまり利用していなかった地域住民等に参加を呼びかけて意見交換、情報交換を行い、地域活動や市民センター事業、学校支援事業等への参加を促すほか、地域課題解決のための学習会を行う地域デビュー支援事業を実施する。	生涯学習市民講座参加者数	目標	実績	達成率	106,000人 (H27年度)	15,522	14,498	11,097	6,900	課長	0.10人	順調	生涯学習市民講座は、講座数（目標：1,200講座、実績：1,095講座）及び参加者数、市政モニターアンケートによる、生涯学習活動に満足していると感じる人の割合は、いずれも目標に対して90%に達している。地域デビュー支援事業は、新規館5館、継続館11館で取組み累計51館となった。目標（58館）には達しなかったが、希望した全ての市民センターで実施し、本事業に受講生として参加したことを契機に、地域活動に取り組む始めるなど、地域デビューにつながる例が見られ、着実に効果が現れている。以上を踏まえて、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 地域デビュー支援事業に受講生として参加したことを契機に、地域活動に取り組む始めるなど、効果が出ている。また、地域活動をリードする人材を育成する「生涯学習指導者育成セミナー」の修了者は、社会教育主事・主事補や市民センター館長等になるなど、地域における生涯学習活動のリーダーとして活動を始めており、生涯学習の推進に寄与している。コーディネーターの配置についても、目標の6割を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 地域における人材の発掘に努めるため、研修会に市民センター館長の参加を促し、コーディネーターの重要性を認識してもらい、全館配置に向け取組んでもらえるよう、各区コミュニティ支援課と連携して働きかけることが必要である。						
						93,589人 (H25年度)	104,700人	99,667人						95.2%						90%	90.7%	係長	0.20人		
						96.3% (H25年度)	90%	88%						97.7%						90%	92.2%	職員			
	6	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	生涯学習の推進ならびに市民センター等の活性化を図るため、学習機会や人材等、地域に関する様々な情報の収集や提供を行う生涯学習コーディネーターを、全市民センターに配置する。	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	目標	実績	達成率	100% (H27年度)	10,948	8,390	8,653	3,650	課長	0.10人	やや遅れ	平成27年度の生涯学習推進コーディネーター配置館は83館であり、全館配置の目標129館に対して64.3%となっており、目標には達していないため、「やや遅れ」と判断。	順調	また、全館配置に向けて市民センター館長に粘り強く働きかけるとともに、配置されたコーディネーターが定着するよう研修等を通じて活動しやすい環境づくりに努める。						
						56.2% (H25年度)	100%	64.6%						64.6%						係長	0.10人				
						64.6%	64.3%	64.3%						職員						0.20人					

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
I-3-(2)-① 地域活動をリードする人材の育成	7	北九州市民カレッジ事業	管理運営課	市民に高度で専門的かつ多様な学習機会を提供し、自己実現の促進および、生涯学習社会を担う人材の育成を図るための事業。北九州市民カレッジの講座は、生涯学習総合センター主催コース（まちづくり・人材育成系、総合・教養系の2コース）と高等教育機関提携コースを前期・後期の2期で実施。	受講者数	690人（H25年度）	目標 720人 実績 769人 達成率 106.8%	750人 693人 92.4%	対前年度30人増	3,816	2,966	3,165	13,550	課長 0.20人 係長 0.60人 職員 0.70人	順調	受講者数は目標値に届かなかったものの、90%を超え、満足度も目標値を上回っていることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 受講者数など僅かに目標を下回ってはいるが、地域活動をリードする人材育成に資する生涯学習市民講座など、1,132講座を実施していることを鑑み「順調」と判断。	受講者の確保を図りつつ、受講者が満足できる質の高い内容を維持していく。生涯学習市民講座は、引き続き、地域課題解決に向けた講座を実施するなど多様な学習機会を提供していく。 また、地域デビュー支援事業に取り組んだ市民センターは、地域デビューした住民に対し、翌年度以降にも活動の場や役割を提供するなど、引き続きサポートしていくことが必要である。したがって、新たに実施する市民センターを増やすことに加え、実施した市民センターが取り組みの成果を出して人材育成につながるようなことができるよう努める。
	8	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、生涯学習市民講座等の手法を活用して意見交換の場を設け、これまで市民センターをあまり利用していなかった地域住民等に参加を呼びかけて意見交換、情報交換や市民センター事業、学校支援事業等への参加を促すほか、地域課題解決のための学習会を行う地域デビュー支援事業を実施する。	生涯学習市民講座参加者数	93,589人（H25年度）	目標 104,700人 実績 99,667人 達成率 95.2%	106,000人 96,182人 90.7%	106,000人（H27年度）	15,522	14,498	11,097	6,900	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.50人	順調	生涯学習市民講座は、講座数（目標：1,200講座、実績：1,095講座）及び参加者数、市政モニターアンケートによる、生涯学習活動に満足していると感じる人の割合は、いずれも目標に対して90%に達している。地域デビュー支援事業は、新規館5館、継続館11館で取組み累計51館となった。目標（58館）には達しなかったが、希望した全ての市民センターで実施し、本事業に受講生として参加したことを契機に、地域活動に取組み始めるなど、地域デビューにつながる例が見られ、着実に効果が現れている。 以上を踏まえて、「順調」と判断。	順調	【課題】 受講者数が目標値の92%（昨年度比90%）と減少していることから、受講しやすい環境づくりを検討する必要がある。	
I-3-(2)-② 地域を支えるボランティアの育成	9	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数（累計）	18法人（H24年度）	目標 45法人 実績 47法人 達成率 104.4%	60法人 60法人 100.0%	75法人（H28年度）	17,664	16,252	16,233	20,700	課長 0.30人 係長 0.60人 職員 1.50人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標を達しており、市民活動の活性化に寄与していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 市民活動のさらなる促進のため、新たな活動参加者の掘り起しが必要である。	市民活動の裾野を広げるため、市民に対し活動のきっかけづくりとなるセミナー、講演会等の充実を図っていく。
					サポートセンター利用者数	18,362人（H20年度）	目標 23,000人 実績 23,127人 達成率 100.6%	23,500人 23,623人 100.5%	24,000人（H28年度）										
II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上	10	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センターの認知度	92%（H23年度）	目標 90% 実績 92.4% 達成率 102.7%	90% 93.1% 103.4%	90%以上（毎年度）	26,656	23,537	15,942	8,075	課長 0.05人 係長 0.30人 職員 0.60人	順調	「消費生活センターの認知度」及び、「消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合」とともに目標値を上回り、高い数値を維持しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 成果指標が目標値に達しており、市民の消費生活の安定と向上に資する事業であったと判断。 【課題】 消費者問題に関心の低い市民には、トラブルの未然防止のための情報が十分に伝わっていない。	引き続き、効果的・効率的な啓発活動に努め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図り、被害防止に取り組んでいく。
					消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合	91.5%（H26年度）	目標 90% 実績 91.5% 達成率 101.7%	90% 96.3% 107.0%	90%以上（毎年度）										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度	人件費（目安）			H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性				
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題					
II-1-(3)-① 「北九州市安全・安心条例」の制定と安全・安心に関わる施策の推進	11	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり推進事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組み、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	刑法犯認知件数	目標		前年件数(11,267件)減	H26年比4,000件減(H31年)	15,355	13,442	-	15,900	課長	0.10	順調	市民が感じる治安状況はほとんど変わっていないが、刑法犯認知件数は着実に減少しているため「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由および課題	H29年度予算要求に向けた施策の方向性				
						実績	12,372件(H25年)	9,682件																
						達成率		1,585件減																
	12	子どもと女性の犯罪被害防止推進事業	安全・安心推進課	子どもと女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	目標		50校	125校(H31年度)	3,300	3,107	-	15,900	課長	0.10	順調	性犯罪の認知件数はほとんど変わっていないが、「安全セミナー」や「地域安全マップづくり」の実施校数は目標を達成しており、防犯意識や知識の向上が着実に図られているため「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由および課題	H29年度予算要求に向けた施策の方向性				
						実績	35校(H25年度)	56校																
						達成率		112.0%																
	13	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心相談センター	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	目標		-	25%以上(H28年度)	3,269	2,437	-	15,900	課長	0.10	順調	安全・安心総合相談ダイヤルを開設し、円滑に運用できているため、順調と判断。	局施策評価	局施策評価の理由および課題	H29年度予算要求に向けた施策の方向性				
						実績	22%(平成27年)	22%																
						達成率		-%																

【評価理由】
市民が感じる治安状況は、昨年度実績から微増であるが、各種犯罪認知件数は1,585件減少(11,267件→9,682件)しており、出前講演やセミナー等による防犯意識や知識の向上が着実に図られ、また、安全・安心総合ダイヤルを開設していることなどを踏まえて「順調」と判断。

【課題】
本市の犯罪認知件数は、減少傾向にあるが、体感治安の向上には至っていない。

犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心に関する情報や取り組みを市内外に発信していく。
また安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものであるため、継続して事業を実施していく。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	14	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	5,212件 (233件減) (平成25年度)	4,973件	3,706件	前年比減	33,138	31,732	34,443	15,900	課長	0.10人	順調	市民が感じる治安状況はほとんど変わっていないが、街頭犯罪認知件数は着実に減少しているため「順調」と判断。			
					市民が感じる治安状況（体感治安）	77% (平成25年)	73%	74%	平成31年度90%											係長
	15	防犯灯設置事業	安全・安心都市整備課	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置促進を図り、町内会等の地域の防犯灯の設置のための費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進。	刑法犯認知件数	11,267件 (平成26年)	11,267件	9,682件	前年(11,267件)比減	153,137	133,371	169,313	3,435	課長	0.04人	順調	目標を達成していることから「順調」と判断。			
					市民が感じる治安状況（体感治安）	73% (平成26年)	73%	73.7%	平成31年度90%											係長
	16	防犯カメラ事業	安全・安心都市整備課	暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑制し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理、運用を行う。	繁華街における犯罪発生件数	小倉中央小学校区 785件 (前年比161件減 17%減) 黒崎中央小学校区 288件 (前年比57件減 19%減) 計 1073件 (前年比166件減 13%減)	166件減 (13%減)	114件増	前年(1,073件)比減	47,714	46,349	108,518	3,435	課長	0.04人	順調	繁華街における犯罪発生件数の減少を目標どおり達成できなかったが、適正に防犯カメラの維持管理・運用できていることから「順調」と判断。	【評価理由】 防犯パトロール活動の促進及び、防犯灯のLED化の促進等、ハード・ソフト両面で、安全・安心な環境整備に取組んだ結果、犯罪認知件数は着実に減少しており、「順調」と判断した。	【課題】 犯罪認知件数は減少傾向にあるが、体感治安の向上には至っていない。	
					市民が感じる治安状況（体感治安）	73% (平成26年)	73%	73.7%	平成31年度90%											係長
	17	防犯カメラ設置補助事業	安全・安心都市整備課	安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取り組みを推進する。	刑法犯認知件数	11,267件 (平成26年)	9,682件	1,585減	前年(11,267件)比減	30,500	14,725	-	3,435	課長	0.04人	順調	防犯カメラ設置補助台数が目標に達していないながらも、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。			
					市民が感じる治安状況（体感治安）	73% (平成26年)	73%	73.7%	平成31年度90%											係長
	18	防犯灯維持管理拡充事業	安全・安心都市整備課	防犯灯の維持管理を拡充することで夜間における犯罪の発生防止や、公衆の通行の安全を更に強化する。主な事業内容としては、 ・市が設置する防犯灯の劣化調査の実施 ・通学路における夜間の安全強化を図る検討 ・地域が設置する防犯灯のLED化の推進などに重点的に取り組む。	刑法犯認知件数	11,267件 (平成26年)	9,682件	1,585減	前年(11,267件)比減	48,400	15,569	-	3,435	課長	0.04人	順調	市設置防犯灯数の全灯調査が目標に達していないながらも、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。			
					市民が感じる治安状況（体感治安）	73% (平成26年)	73%	73.7%	平成31年度90%											係長

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度	人件費（目安）			H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
II-1-(3)-③ 暴力団追放運動の推進	19	暴力追放の推進	安全・安心相談センター	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識を高める市民暴力追放総決起大会や暴力追放強調月間による集中的な啓発活動などを実施し、官民一体となって取り組む。	暴追対策に対する市民の評価	目標	前年度比増	前年度比増	72%以上(28年度)	15,635	11,025	9,356	12,850	課長	0.40 人	順調	暴力追放意識の高揚と暴排機運の醸成を図ることを目的に、暴追大会や研修会等を計26回開催（目標28回）し、目標の9割を達成した。また、暴追対策に対する市民の評価が増加していることから「順調」と判断。	【評価理由】 目標を達成しており、また、官民一体となった暴力追放の推進に取り組んでいるため、「順調」と判断。	【課題】 暴追大会や研修会等を引き続き開催し、事業者・市民の暴排意識を薄れさせないことが必要である。	暴力追放の推進は、市民生活のみならず、本市が都市として発展していく上でも必要である。また、暴力追放を推進する上で、身近な安全・安心に関する相談を受け付け、市民の不安感解消を図ることも必要であるため、引き続き事業を実施していく。
						実績	68 %	70 %						73.4 %	係長					
	達成率	142.0 %	103.0 %	131.5 %	職員	0.70 人														
	目標	前年度比増	前年度比増	75%以上(29年度)	26,864	25,095	25,691	4,300	課長	0.20 人										
	実績	68 %	70 %						73.4 %	係長	0.20 人									
	達成率	142.0 %	103.0 %	131.5 %	職員	0.00 人														
目標	前年度比増	前年度比増	25%以上(28年度)	3,269	2,437	-	15,900	課長	0.10 人											
実績	-	22 %						22 %	係長	0.35 人										
達成率	-	- %	- %	職員	1.50 人															

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性					
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題						
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	22	交通安全推進事業	安全・安都整備課	第8次交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	8,325件（H26年）	目標 前年（8,949件）比減	実績 8,325件	前年（8,325件）比減	8,075件	平成27年度までに8,000件以下	5,444	5,421	6,107	9,800	課長 0.20人	順調	小学校等での交通安全教室の参加が前年度より大幅に増加（H26：37,860人、H27：40,462人）している。また、前年度と交通事故死者数は同じだったが、交通事故発生件数は減少しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 交通事故発生件数や、自転車事故発生件数は、着実に減少しており、各活動において一定の成果を収めているため「順調」と判断。 【課題】 市民への交通安全に対する意識を更に高め、交通事故防止の取り組みを図る。	交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行うとともに、自転車交通ルール検定等の的を絞った効果的な取り組みを行う。				
	23	交通安全センター管理運営	安全・安都整備課	市立交通安全センターを管理（指定管理）するとともに、交通公園内外における交通ルール・マナーの徹底を図り、自転車の安全運転を促進する。	交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	8,325件（H26年）	目標 前年（8,949件）比減	実績 8,325件	前年（8,325件）比減	8,075件	平成27年度までに8,000件以下	27,573	27,573	27,573	3,650	課長 0.10人						大変順調	交通公園の入場者数（目標187,715人、実績240,029人）、安全教室の開催数（目標508回、実績573回）が目標を上回っている。また、交通事故発生件数、自転車事故発生件数ともに前年比較で減少したため「大変順調」と判断。	順調	
					自転車関連事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	972件（H26年）	目標 前年（1,069件）比減	実績 972件	前年（972件）比減	850件	前年比減（毎年）					職員 0.20人									
24	自転車安全運転向上事業	安全・安都整備課	自転車のルール・マナーアップを推進するため、自転車交通ルール検定の対象者拡大など自転車安全教育や啓発の更なる推進とともに、万が一に備えた自転車保険の加入促進に取り組む。	自転車関連事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	972件（H26年）	目標 前年（1,069件）比減	実績 972件	前年（972件）比減	850件	前年比減（毎年）	2,000	2,123	1,977	5,400	課長 0.10人	大変順調	自転車交通ルール検定等の活動が目標を上回っている。（検定参加校は目標どおりの62校、安全教室の開催数は目標508回、実績573回）前年比較で、自転車事故発生件数が減少したため「大変順調」と判断。	順調							
職員 0.30人																									
II-1-(3)-⑤ 非行や犯罪を生まない地域づくり	25	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	5,212件（233件減）（平成25年度）	目標 前年（5,212件）比減	実績 4,973件	前年（4,973件）比減	3,706件	前年比減	33,138	31,732	34,443	15,900	課長 0.10人	順調	市民が感じる治安状況はほとんど変わっていないが、各種犯罪認知件数は着実に減少している。また、地域の生活安全パトロール隊による自主防犯活動の参加人数や実施回数も増加していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民が感じる治安状況は、ほとんど変わっていないが、各種犯罪認知件数は着実に減少している。また、地域の生活安全パトロール隊による自主防犯活動の参加人数や実施回数も増加していることから、「順調」と判断。 【課題】 本市の犯罪認知件数は、減少傾向にあるが、体感治安の向上には至っていない。	犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、安全・安心に関する情報や取り組みを効果的に市内外に発信していく。				
					市民が感じる治安状況（体感治安）	77%（平成25年）	目標 前年度比増	実績 73%	前年度（73%）比増	74%	平成31年度90%					職員 1.50人									
					達成率 95.0%	101.4%																			

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題		
II-3-(4)-① 平和の尊さへの理解の促進	26	戦時資料展示コーナー管理運営事業	地域振興課	本事業は、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管、展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただく。	戦時資料展示コーナー見学者数	3,647人 (H22年度)	4,000人 目標	4,000人 実績	4,000人 目標	4,000人 (平成28年度)	6,327	7,361	1,444	1,220	課長 係長 職員	0.03人 0.05人 0.05人	順調	見学者数が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 見学者数は概ね目標を達成している。また、平成27年度に戦時資料展示コーナーのリニューアルやPRビデオを作製するなど、平和の尊さへの理解の促進が図られていると考え「順調」と判断。 【課題】 僅かではあるが、見学者数が目標を下回っていることから、多くの市民に会場に来ていただけるよう、案内チラシの配布先拡充など、広報活動の充実に取り組んでいかなければならない。	戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを、多くの市民に理解していただくため、広報活動を通じて、戦時資料展示コーナーの周知により一層力を入れていく。チラシ配布先の拡充等、PR活動を通じて、入場者数の増加に繋げていきたい。
III-1-(1)-④ 市民のモラル・マナーの向上	27	モラル・マナーアップ関連条例推進事業	安全・安心都市整備課	条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。 ・小倉・黒崎地区（迷惑行為防止重点地区）での巡視活動（過料の適用） ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援 ・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育 ・モラル・マナーアップに関する広報啓発	迷惑行為防止に係る地域活動団体数	82団体 (H26年度)	82団体 目標	87団体 実績	87団体 前年度比増 (毎年度)	87団体 前年度比増 (毎年度)	30,531	27,499	28,401	6,150	課長 係長 職員	0.10人 0.20人 0.40人	順調	「迷惑行為防止重点地区での巡視・啓発活動回数」（目標15回以上／月、実績22回／月）及び「迷惑行為防止重点地区の取組に関する広域的な広報・啓発活動回数」（目標36回、実績46回）について目標を達成した。 また、「迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加」及び「路上喫煙率」の成果指標についても目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 迷惑行為防止に係る地域活動団体数が前年度より増加し、活動の裾野が広がっていることと、路上喫煙率が前年度より減少していることから、広報・周知の成果を収めていると判断し「順調」としたもの。 【課題】 円滑な巡視活動や広報・周知のため、引き続き路面標示等の整備が必要。	モラル・マナーアップ関連条例推進事業について、基本計画（第2次計画）に掲げた目標達成に向けて取り組みの充実・強化を図る。また、3箇年の迷惑行為防止重点地区内の路面標示等サイン整備計画どおり45箇所の路面標示の整備を行い、重点地区内の迷惑行為に係る過料適用の周知を図る。
					路上喫煙率（歩行者に占める喫煙者の割合）	小倉0.17% 黒崎0.24% (H26年度)	小倉0.17% 黒崎0.24% 目標	小倉0.10% 黒崎0.20% 実績	小倉0.07% 黒崎0.04% 前年度比減 (毎年度)	小倉0.07% 黒崎0.04% 前年度比減 (毎年度)											
	28	迷惑行為防止重点地区サイン整備事業	安全・安心都市整備課	迷惑行為防止重点地区内の路面標示等サイン整備の充実を図ること、円滑な巡視活動や広報・周知の取り組み強化につなげ、市民のモラル・マナーアップを推進する。	迷惑行為防止に係る地域活動団体数	82団体 (H26年度)	82団体 目標	87団体 実績	87団体 前年度比増 (毎年度)	87団体 前年度比増 (毎年度)	2,000	1,944	—	4,400	課長 係長 職員	0.10人 0.30人	順調	「路面標示設置枚数」について目標どおりの46枚を達成した。 また、「迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加」及び「路上喫煙率」の成果指標についても目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため、「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財の保存団体の自主的な申請に対して補助を行うもので、急激に申請件数が増加するものではないが、引き続き、保存団体に対して周知を行っていく。	本事業の補助金は、市の指定無形民俗文化財保存団体が行う伝承者の養成や文化財の公開のほか、用具の購入や修理の費用の一部に充てられており、子どもたちに対する技術の伝承など、伝統文化の保存・継承につながっている。補助金事業は、文化財保存団体の活動の強化につながる有益な手段となっていることから、今後も引き続き継続して対して周知を行っていく。
					路上喫煙率（歩行者に占める喫煙者の割合）	小倉0.17% 黒崎0.24% (H26年度)	小倉0.17% 黒崎0.24% 目標	小倉0.10% 黒崎0.20% 実績	小倉0.07% 黒崎0.04% 前年度比減 (毎年度)	小倉0.07% 黒崎0.04% 前年度比減 (毎年度)											
III-2-(1)-② 地域における伝統文化の発掘・継承	29	文化財保存補助	文化企画課	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16団体 (H26年度)	17団体 目標	16団体 実績	16団体 前年度以降 (毎年度)	1,198	1,198	1,007	11,050	課長 係長 職員	0.20人 0.50人 0.50人	順調	保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため、「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財の保存団体の自主的な申請に対して補助を行うもので、急激に申請件数が増加するものではないが、引き続き、保存団体に対して周知を行っていく。	本事業の補助金は、市の指定無形民俗文化財保存団体が行う伝承者の養成や文化財の公開のほか、用具の購入や修理の費用の一部に充てられており、子どもたちに対する技術の伝承など、伝統文化の保存・継承につながっている。補助金事業は、文化財保存団体の活動の強化につながる有益な手段となっていることから、今後も引き続き継続して対して周知を行っていく。	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）			H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題		
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	30	芸術文化活性化事業	文化企画課	【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施。	北九州芸術劇場・自主事業入場率	目標	80 %	80 %	80% (平成28年度)	159,531	100,155	113,391	3,550	課長	0.05 人	順調	北九州芸術劇場については、高レベルの舞台芸術が提供され、入場率も目標値を上回った。 響ホール事業については、入場率の面で目標を若干下回ったものの、著名なアーティストのみならず、若手や地元で活躍する演奏家を活用するなど幅広いラインナップをそろえ、来場者の満足度は非常に高かった（アンケート回答者の約91%が内容に満足）。 以上のことから、本市の文化芸術をけん引する発信力の高い事業が実施されたものと評価し、事業評価を「順調」と判断。	【評価理由】 文化施設からの文化芸術の発進など、概ね目標値を達成しており、また、映画の街・北九州という都市ブランドを発進している北九州フィルム・コミッションの認知度もことから、発信力の高い文化芸術の振興に寄与していると判断して「順調」とするもの。	今後とも発信力の高い、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性や収支の観点も加えながら、事業規模を維持していく。 また、これまでの映画等の誘致の成果を活用し、街の魅力を市内外に発信するとともに、国外における本市の知名度アップやインバウンドの増加につなげるため、アジア諸国の映画、テレビドラマの誘致・支援にも本格的に取り組むことで「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドのさらなる確立に向けた取組みを強力に推進する。		
				実績		89 %	88 %	課長												0.05 人	
	達成率	111.3 %	110.0 %	職員	0.17 人																
				【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施	響ホール事業・響ホール自主事業入場率	目標	65 %	65 %	65% (平成28年度)												
						実績	60 %	57.7 %													
						達成率	92.3 %	88.8 %													
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	31	北九州国際音楽祭	文化企画課	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、27年度で28回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。	北九州市国際音楽祭の満足度の割合	目標	85 %	85 %	85% (平成28年度)	40,000	29,021	28,120	1,625	課長	0.05 人	順調	国際音楽祭は本年も本市出身で世界で活躍するアーティストをはじめ、国内外の一流の演奏家を招いて実施された。 入場者数も前年度の11,233人を431人上まわる11,664人となり、満足度も高い水準を維持していることから、本市の文化振興に大きく寄与したと判断し「順調」とするもの。	【課題】 今後は、本市の魅力を国内外に発信するため、 ①新たな観光客の獲得を見据え、海外作品の誘致に積極的に取り組むこと ②これまでの事業の成果を街のにぎわいづくりに活用していくこと ③映画も芸術文化の一つとして地域文化に根付かせていくことが重要と考える。			
				実績		99 %	100 %	課長											0.06 人		
				達成率		116.5 %	117.6 %	職員											0.06 人		
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	32	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献（直接経済効果）	目標	110,000 千円	110,000 千円	110,000千円 (毎年度)	26,192	33,701	13,769	36,100	課長	0.40 人	順調	成果指標として掲げた撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献（直接経済効果：目標110,000千円、実績106,909千円）、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度（目標60.0%、実績58.7%）とともに、概ね目標値を達成したことから「順調」と判断。				
				実績	105,980 千円	106,909 千円	課長	1.80 人													
				達成率	96.3 %	97.2 %	職員	1.80 人													
				北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	目標	60.0 %	60.0 %	80.0% (平成30年度)													
						実績	59.9 %	58.7 %													
						達成率	99.8 %	97.8 %													
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	33	芸術文化育成負担金・補助金	文化企画課	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う事業。	各種文化事業の実施	目標	16 事業	15 事業	15事業 (平成28年度)	37,450	37,424	41,361	5,825	課長	0.05 人	順調	助成団体・事業数は前年と同程度（前年度比1団体減の15団体）で推移し、各団体のイベントは予定どおり実施され、多数の来場があった。この助成制度の存在により、市民レベルでの文化活動を支える一定の効果があることから、事業評価を「順調」とした。	【評価理由】 成果目標を達成しており、市民の文化芸術活動の促進に寄与していると判断し「順調」としたもの。	これらの助成制度は、市民レベルでの活動を支えるものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のためにも、今後とも必要なものである。 したがって、個別の助成の必要性等を検討しながら、今後も事業を継続していきたい。		
				実績	16 事業	15 事業	課長	0.30 人													
				達成率	100.0 %	100.0 %	職員	0.30 人													
				北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	目標	25 件	25 件	25件 (毎年度)	11,366	8,956	9,014	3,825	課長	0.05 人	順調	限られた予算の中で、市民の自主的な芸術、文化活動の助成を行うことができたため、順調と判断。				
実績	20 件	30 件	課長	0.10 人																	
達成率	80.0 %	120.0 %	職員	0.30 人																	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
Ⅲ-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大	35	美術館企画展充実事業	美術館普及課	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	美術館の入館者数	245,420人 (H26年度)	目標 300,000人 実績 245,420人 達成率 81.8%	150,000人 153,707人 102.5%	300,000人 (毎年度)	83,464	71,370	102,029	36,750	課長 0.25人 係長 0.65人 職員 3.65人	やや遅れ	美術館全体の入館者数は目標値を達成しているが、コレクション展の観覧者数は目標値を大きく下回っている。本館改修工事に伴う休館の影響によるものではあるが、目標値との乖離が大きいことから「やや遅れ」と判断。	順調	【評価理由】 美術館の企画展観覧者数は目標を下回ったが、これは本館の改修工事による影響であり、他の目標は達成できているため、市民が文化芸術に接する機会に寄与していると判断し「順調」とするもの。	市民が文化芸術に接する機会の拡充を図るため、美術館並びに博物館において、入館者の増につながるような様々な企画展等を実施する。	
	36	博物館企画展・特別展充実事業	自然・歴史博物館普及課	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るもの。 ＜平成27年度特別展＞ ・春の特別展「地球からの贈り物」(3/21～) ・夏の特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」 ・秋の特別展「医は仁術」 ・冬の特別展「大正・昭和の暮らしと風景」 ・春の特別展「ふしぎの教室」	博物館総入館者数	343,390人 (H21年度)	目標 430,000人 実績 474,939人 達成率 110.5%	410,000人 472,389人 115.2%	430,000人 (毎年度)	55,929	52,237	48,867	74,600	課長 1.40人 係長 1.80人 職員 5.40人	順調	春の行楽シーズンや夏休みなどの多客期に誘客力の高い特別展を開催することで、総入館者数について目標値を達成するとともに、ほぼ前年並みの入館者数を維持することができたため「順調」と判断。	【課題】 魅力ある特別展を開催する事業費を確保するため、実行委員会形式の導入や、補助金の活用など外部資金の調達等検討する必要がある。			

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性					
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題						
Ⅲ-2-(2)-④ 文化芸術の担い手の育成	37	「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めていく。	合唱関連事業における歌い手としての参加者	682人（H27年度）	目標	—	実績	682人	達成率	—%	増加（平成28年度）	2,000	1,797	—	7,150	課長	0.10人	順調	合唱が盛んな本市の素地を活かして、音楽文化の振興のため、合唱関連の様々な事業を行った結果、各事業の参加者の合計は1,700人余りを数えた。また、合唱に関する有識者等にご参加いただいた「情報交換会」を開催し、事業の進め方について有益な情報交換ができたため、事業評価を「順調」とした。	H29年度予算要求に向けた施策の方向性			
	38	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関です。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための市民美術大学美術講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。これら事業を実施しているCCA北九州を支援するものである。	リサーチプログラムの受講者数	6人（H23年度）	目標	6人	実績	3人	達成率	50.0%	6人（平成28年度）	54,375	54,325	52,289	8,150	課長	0.10人				順調	平成27年度に入り、活動場所の移転に時間を要し、実施予定の事業を一部縮減せざるを得なかったが、予定の大部分を実施することができた。そのような中、リサーチプログラムの受講生を3人確保するとともに、目標の7割に及ぶ参加者を得ることができた。これは、幅広い階層へ人気の市民美術大学などの講座・展覧会の開催を効果的に行った結果であると考えられる。以上から、事業評価を「順調」とした。	
			CCA北九州事業参加者人数	2,122人（H23年度）	目標	2,200人	実績	1,694人	達成率	77.0%	2,200人（平成28年度）					職員	0.00人								
		39	子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作文を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、平成21年度に全国の小中学生を対象に創設した。	市内からの応募割合	35%（H24年度）	目標	50%	実績	39%	達成率	78.0%	50%（H26年度）	12,043	7,760	10,042	9,300	課長				0.20人	やや遅れ	応募者の多い学校からの応募が減り目標を下回ったため「やや遅れ」とした。
				17ブロックのうち作品応募のあったブロック数	12ブロック（H23年度）	目標	17ブロック	実績	12ブロック	達成率	70.6%	17ブロック（H26年度）					係長	0.40人							
			応募総数	1,000件	目標	1,000件	実績	570件	達成率	57.0%	1,000件（H28年度）					職員	0.40人								
	40	林芙美子文学賞事業	文学館	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文化的土壌を全国に発信するとともに、北九州市文化振興計画の重要な柱である「人材育成」に寄与することを目的とする。	「林芙美子文学賞」作品応募者数	1,602件（H26年度）	目標	400件	実績	1,602件	達成率	400.5%	700件（H28年度）	15,982	11,995	—	5,825	課長	0.05人	順調	応募作品数は目標に若干至らなかったが、目標値と近い数字であるため「順調」とした。				
																係長	0.30人								
																職員	0.30人								
	41	芸術文化体験事業	文化企画課	通常の演奏会や公演の鑑賞ではなく、様々な形で子どもたちが身近に芸術文化を体験できるように、地元文化団体等が企画した芸術体験プログラム（ワークショップ等）を夏休み期間中に集中的に実施し、親子で芸術文化を楽しむ機会の拡充に努める。	子ども文化ふれあいフェスタ参加者の満足度	96%（H23年度）	目標	90%	実績	97%	達成率	107.8%	90%（平成28年度）	14,056	11,164	5,093	8,725	課長	0.15人	順調	評価指標における子ども文化ふれあいフェスタ体験型事業の申込参加率（目標80%、実績100%）や満足度は目標を達成していることから「順調」とした。また、子どもふれあいフェスタの他にも、放課後児童クラブ訪問コンサートの実施やソレイユホール5周年事業の実施等、子どもたちを中心に文化・芸術に触れる機会の創出を行うことができた。				
																	係長	0.40人							
																	職員	0.40人							

【評価理由】
一部目標を達成できていない成果指標もあるが、音楽、現代美術、文学など幅広く担い手の育成につながる事業を展開している。また、子どもたちへは身近に芸術文化を体験できる機会も提供しており、総合的に文化芸術の担い手の育成に寄与していると判断し「順調」としたもの。

【課題】
今後、本市の文化芸術をさらに振興させていく上では、市民等が文化芸術へ接する機会を引き続き確保・拡大していくことが必要であり、事業の効率性・有効性を十分に勘案しながら、多様な分野の文化芸術活動を支援し、また事業を実施していく必要がある。

H28から採択された文化庁補助等を活用しながら、引き続き「合唱の街・北九州」に向けて、事業を実施していきたい。
あわせて、本市の文化・芸術の振興にあたり、次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シビックプライドの醸成という観点からも、若者等が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要であるため、本市の文化・芸術の振興にあたり、次世代の担い手の育成は非常に重要な課題である。また、子どもたちや若者が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要である。
このため、学校・地域等における教育普及活動（アウトリーチ）やホール等の文化施設における体験活動に力を入れてきており、今後も、子どもたちの文化・芸術に接する機会の更なる拡大に向けて、事業内容を検討していきたい。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
Ⅲ-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり	42	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	83,161人 (H27年度)	目標 100,000 人 実績 92,819 人 達成率 92.8 %	100,000 人 83,161 人 83.2 %	10万人/年	56,397	45,702	52,672	44,000	課長 係長 職員	1.00 人 1.00 人 3.00 人	順調	企画展を予定通り開催しておりおおむね「順調」と判断した。	順調	【評価理由】 漫画ミュージアムについては、成果指標の目標の8割程度の実績であったが、活動指標としていた企画展の開催回数（目標5回、実績5回）やワークショップの開催（目標48回、実績83回）など活発な活動を考慮し、他の事業については概ね成果指標の目標を達成していることから、総合的に芸術文化によるまちづくりに寄与したと判断し、おおむね「順調」としたものの。 【課題】 北九州国際漫画大賞を創設して漫画文化の一層の普及を図る必要がある。 にぎわいづくりに寄与するため費用対効果のある企画展を実施する必要がある。	漫画ミュージアムの趣旨を考慮しつつ、魅力ある企画展を実施することでにぎわいづくりに寄与する。 北九州国際漫画大賞を充実させ、漫画文化の普及を図る。 これまでの映画等の誘致の成果を活用し、街の魅力を市内外に発信するとともに、国内外における本市の知名度アップやインパウンドの増加につなげるため、アジア諸国の映画、テレビドラマの誘致・支援にも本格的に取り組むことで「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドのさらなる確立に向けた取組みを強力に推進する。 また、平成28年度に設置する（仮称）文学の駅の効果的な運営を行い、定期的にソフト事業を行っていくことで一層「文学の街・北九州」の発信を図っていく。
	43	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献（直接経済効果）	100,000千円 (H21年度)	目標 110,000 千円 実績 105,980 千円 達成率 96.3 %	110,000 千円 106,909 千円 97.2 %	110,000千円（毎年度）	26,192	33,701	13,769	36,100	課長 係長 職員	0.40 人 1.80 人 1.80 人	順調	成果指標として掲げた撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献（直接経済効果：目標110,000千円→実績106,909千円）、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度（目標60.0%→実績58.7%）とともに、概ね目標値を達成した。			
				北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	59.8% (H25年度)	目標 60.0 % 実績 59.9 % 達成率 99.8 %	60.0 % 58.7 % 97.8 %	80.0% (平成30年度)												
44	文学の街・北九州発信事業	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組みとともに、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	小倉都心部に点在する文化資源の導線がにぎわい、多くの市民が気軽に本市ゆかりの作家・文学者に触れることのできる状態	文化的資源に活用余地がある状態	目標 — 実績 — 達成率 —	— — —	(仮称)文学の駅を整備し、効果的に運営していく	2,800	2,510	—	6,400	課長 係長 職員	0.10 人 0.30 人 0.30 人	順調	平成28年度より実行する、杉田久女・橋本多佳子などの顕彰や、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みを行う計画を策定することができた。				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題		
Ⅲ-2-(3)-① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	45	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数	30,367人 (H26年度)	目標 30,000人 実績 30,367人 達成率 101.2%	30,000人 30,623人 102.1%	30,000人 (維持)	9,000	8,897	9,000	4,650	課長 係長 職員	0.10人 0.20人 0.20人	順調	目標を上回る参加者数となっており、「順調」と判断。				
	46	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	市民への生涯スポーツ振興・普及のため、各区においてスポーツ教室、交流大会、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,371人 (H26年度)	目標 12,000人 実績 12,371人 達成率 103.1%	12,600人 14,485人 115.0%	H30年度までに30,000人	20,018	18,874	19,074	990	課長 係長 職員	0.01人 0.05人 0.05人	順調	目標を上回る参加人数となっており、「順調」と判断。				
	47	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブである。多世代、多職種、多志向を特徴とし地域住民等により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものであり、この果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,800人 (H22年度)	目標 2,500人 実績 2,343人 達成率 93.7%	2,700人 2,265人 83.9%	H32年度までに4,000人	3,779	3,459	3,458	2,325	課長 係長 職員	0.05人 0.10人 0.10人	順調	総合型地域スポーツクラブの会員数は前年度実績及び目標値を下回ったが、クラブの交流事業や勉強会を定期的に開催しているため「順調」と判断。	【評価理由】 『誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり』を推進するため、各事業において設定した成果指標の目標を概ね達成しており、「順調」と判断。 【課題】 『誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり』の目玉のひとつである「北九州マラソン」を継続開催し、安定した運営体制を確立することで地域に根付いたシンボルイベントとして成長させる必要がある。			
	48	夢・スポーツ振興事業	スポーツ振興課	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、国際・全国大会で活躍する選手を育成するための選手個々の能力を高める事業を実施。	強化講習会等の実施	—	目標 教室・強化講習会等実施 実績 教室・強化講習会等実施 達成率 —	—	教室・強化講習会等実施継続	5,000	5,181	3,950	6,305	課長 係長 職員	0.02人 0.24人 0.49人	順調	選手強化事業は目標種目数を達成（目標：5種目、実績：8種目）し、また、参加者数も目標に近い数値となっている（H27年度目標：300人、達成率：90.3%）ことから「順調」と判断。				
	49	北九州マラソン開催事業	スポーツ振興課	・主催：北九州市、（一財）福岡陸上競技協会 ・主管：北九州マラソン実行委員会 ・後援：国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所ほか25団体 ・コース：北九州市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数（予定）マラソン：10,000名、ベアリレーマラソン：100組200名、ファンラン（3km又は5km）：1,000名 ・大会当日および前日に関連イベントを開催	マラソン大会開催による経済波及効果	10.5億円 (H25年度)	目標 H26年度は未測定 実績 — 達成率 —	11.5億円	11.5億円 (H29年度)	99,300	98,964	70,000	68,750	課長 係長 職員	2.50人 2.50人 2.00人	順調	全国のランナーからの高い評価、市民の盛り上がり等により「順調」と判断。				
				インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング（参加者7,000人以上の大会を対象）	5位 (H28年6月時点)	目標 1位 実績 3位 達成率 —	1位	1位 (H31年度)													

『誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり』を推進するためには、市民に身近なスポーツ大会の開催から、そのスポーツを楽しめるような選手の育成など、幅広く事業を展開する必要があるため、引き続き実施していく。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
Ⅲ-2-(3)-② スポーツを通じた にぎわいづくり	50	国際大会・全国大会等スポーツ開催	スポーツ振興課	市内において国際大会・全国規模の大会の開催を行い、多くの市民にスポーツに関心を高め、「みる」スポーツのニーズを引き出し、スポーツに取り組みきっかけをつくる。また、高度なレベルの技術などを目にするすることで、個々の競技力の向上につなげる。	国際・全国大会等の開催数	29回 (H26年度)	21回	20回	30回 (H32年度)	3,600	3,750	2,900	2,615	課長	0.01人	順調	関係団体の協力を得ることで全国大会等のスポーツ大会開催数は目標を上回り、スポーツイベントの参加人数も目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	誘致対象国・団体に積極的に本市PRや協議を行い、大規模国際大会及びキャンプ地受入れの決定を目指す。	
				大型スポーツイベント（自主事業）の参加人数	3,000人 (H26年度)	3,000人	3,221人	3,000人（維持）					係長	0.10人						
														職員	0.20人					
	51	ギラヴァンツ北九州支援事業	スポーツ振興課	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	87% (H26年度)	90%	90%	90% (H28年度)	60,000	60,000	60,000	3,075	課長	0.05人	やや遅れ	ギラヴァンツ北九州の市民認知度は、ほぼ目標どおりとなったが、平均入場者数が目標に届かなかったため、「やや遅れ」と判断。	順調	【評価理由】『スポーツを通じたにぎわいづくり』のため、本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」の支援や、大規模国際大会及び全国大会等の誘致事業を実施しており、各事業で設定した目標（ギラヴァンツ北九州の市民認知度、国際大会や全国大会等誘致実績等）を概ね達成している状態のため、「順調」と判断。 【課題】「ギラヴァンツ北九州」主催試合の平均入場者数や「スポーツ観戦率」が目標に届いていないことから、今後も「ギラヴァンツ北九州」に対する支援を継続するとともに『見る』スポーツの更なる振興を図る必要がある。	
			ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数	3,622人 (H26年度)	4,500人	3,488人	4,500人 (H28年度)					係長	0.10人							
													職員	0.20人						
	52	ホームタウン推進事業	スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイング」や「福岡ソフトバンクホークス」の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	スポーツ観戦率	23% (H26年度)	28%	34%	34% (H28年度)	64,450	59,641	61,362	6,575	課長	0.05人	順調	成果指標は目標を下回ったが、前年度実績を上まわることができた。また、招待者数においては、目標を達成（目標：11,400人、実績：13,680人）していることも鑑み「順調」と判断。	順調	誘致対象国・団体に積極的に本市PRや協議を行い、大規模国際大会及びキャンプ地受入れの決定を目指す。	
													係長	0.15人						
													職員	0.60人						
	53	大規模国際大会誘致関係事業	大規模大会誘致推進室	生涯スポーツの振興やまちのにぎわいづくりへとつながる大規模国際大会の試合会場及び、ラグビーワールドカップ2019日本大会や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等のキャンプ地を本市に誘致すること、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へとつなげることを目的として、戦略的な誘致プロモーションの展開や、「官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。	ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるキャンプ地誘致数	—	—	1ヶ国又は1協議以上 (H31年度)	30,500	31,321	120,805	23,250	課長	0.50人	順調	成果指標である「国際大会誘致件数」は目標を達成し、「ラグビーワールドカップ2019などのキャンプ地誘致」についても順調に誘致活動を実施していることから「順調」と判断。	順調	誘致対象国・団体に積極的に本市PRや協議を行い、大規模国際大会及びキャンプ地受入れの決定を目指す。		
			国際大会や全国大会等の誘致	1件 (H26年度)	—	4件	1件以上 (H31年度)					係長	1.00人							
													職員	1.00人						

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度			H26年度			人件費（目安）			H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題						
Ⅲ-2-(3)-③ スポーツ施設の整備	54	戸畑D街区スポーツ施設整備事業	スポーツ振興課	戸畑区内に点在し老朽化したスポーツ施設を、戸畑区役所横の浅生小・中学校等跡地（D街区）に集約整備する。	施設完成年度における利用者数	目標	—	—	110,800人（供用開始のH28.9.1からH29.3.31まで）	2,585,800	771,286	220,896	18,700	課長	0.30	順調	建築工事の入札不調により着工時期は遅れたが、H28年度供用開始に向けて概ね計画通り進捗（目標：施設整備の進捗率95.0%、実績81.4%）していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 H28年度中の供用開始に向けて概ね計画通り進捗しているため、「順調」と判断する。	平成28年度事業完了					
						実績	—	—						係長	1.00						人員				
						達成率	—	—						職員	0.70										
Ⅲ-3-(1)-① 市民主体の地域づくりの促進	55	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	目標	136 団体	134 団体	137団体（H30年度）	394,392	373,858	400,692	3,825	課長	0.05	順調	新たに導入した団体数は目標を僅かに下回ったが、導入済み団体数は順調に増加しており、また、未導入団体への働きかけを予定どおり実施（目標どおりの6団体）していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 地域カルテフォローアップ事業など目標値に届かなかったもの、市民主体の地域づくりの促進として、まちづくり協議会へ地域総括補助金制度の導入や、地域カルテ事業及びそのフォローアップ事業の働きかけを予定どおり実施してきており、概ね「順調」と判断。	引き続き、地域が一体となった、住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や、地域で様々な取り組みを行う各種地域団体等に対し、地域総括補助金の交付や、各種支援事業などの地域のニーズに応じた施策を展開する。					
						実績	130 団体	133 団体						係長	0.10						人員				
						達成率	95.6 %	99.3 %						職員	0.30										
	56	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会の活性化を図るため、地域課題解決のアイデア等を盛り込んだ「地域カルテ」の作成や、地域カルテに基づく活動を支援するフォローアップ事業を行うとともに、活動の参考となる事例の紹介等を行う「地域のちから」報告会や、「地域づくりマネジメント研修」を開催し、住民主体の地域づくりを促進する。	地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会の数	目標	10 団体	10 団体	住民主体の新たな地域づくりが活発に御行われている状態	6,547	4,226	5,352	3,575	課長	0.05	やや遅れ	「地域カルテ事業」の実施については目標を達成したが、「地域カルテフォローアップ事業」が成果目標に届かなかったため、「やや遅れ」と判断した。	やや遅れ	【課題】 地域が抱える様々な課題や、その解決に向けた取り組みの内容は様々であるが、地域が主体的に具体的な地域課題を解決することができるよう、地域・地域活動を支援する仕組みづくりを行う必要がある。						
						実績	9 団体	6 団体						係長	0.15						人員				
						達成率	90.0 %	60.0 %						職員	0.20										
Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設の活用・運営	57	市民センターの充実	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民（サブ）センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行う。	市民センター1館当たりの利用者数	目標	42 千人	42 千人	42千人（毎年度）	2,146,385	2,092,249	2,025,711	46,250	課長	1.00	順調	市民センターからの情報発信や、市民センター整備などを概ね計画どおりに進めた結果、利用者数やコミュニティ活動の参加者数はほぼ目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民センター1館あたりの利用者数は、僅かに目標を下回っているものの、前年度利用者数を維持しており、また、市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数（延べ）については目標を達成しており、市民センターの整備についても、地元調整に十分時間をかけながら、市民センターの改修を行っていることから「順調」と判断。	引き続き、市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面を整備するとともに、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報発信等ソフト面の充実に努め、利用者の増加を図る。					
						実績	41 千人	41 千人						係長	1.00						人員				
						達成率	97.6 %	97.6 %						職員	3.30										
					市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数（延べ）	目標	1,955 千人	1,955 千人	1,955千人（毎年度）	2,084 千人	2,136 千人	106.6 %	109.3 %	106.6 %	109.3 %	106.6 %	109.3 %	106.6 %	109.3 %	106.6 %	109.3 %	106.6 %	109.3 %		
						実績	2,084 千人	2,136 千人																106.6 %	109.3 %
						達成率	106.6 %	109.3 %																106.6 %	109.3 %

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	58	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	31,075	30,195	31,576	4,095	課長	0.03 人	順調	「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」や、「地域づくり活動への参加者の割合」が、目標を概ね達成していることから、当該事業の実施は自治会活動等に対する市民の理解醸成に資するものであったと考え、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活発化に繋がる広報・研修については、自治総連合会と連携しながら継続的に取り組んでおり、「広報・研修等の事業数」は目標を、「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は前年度実績をそれぞれ上回っており、このほか自治会発案の事業や集合住宅に対する働きかけなど、新たな加入促進策の取り組みを始めたことから「順調」と判断。 【課題】 引き続き世代に応じた働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組みなどにより、自治会町内会の活性化に努めていく必要がある。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンション等の管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求めることに力を入れていく。また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的に行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。
						実績	80.3 %	82.0 %												
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	59	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数（累計）	目標	45 法人	60 法人	75法人 (H28年度)	17,664	16,252	16,233	20,700	課長	0.30 人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業が目標を達成しており、市民活動の活性化に寄与していると考え「順調」と判断。 【課題】 市民活動のさらなる促進のため、新たな活動参加者の掘り起しが必要である。	市民活動の裾野を広げるため、市民に対し活動のきっかけづくりとなるセミナー等の充実を図る。また、NPOへの資金的な支援を引き続き行っていく。
						実績	47 法人	60 法人												
60	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	サポートセンター利用者数	目標	23,000 人	23,500 人	24,000人 (H28年度)	4,275	3,627	3,885	3,775	係長	0.60 人	職員	1.50 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	
					実績	23,127 人	23,623 人													
					補助交付事業件数（累計）	目標	48 件	68 件	74件 (H28年度)					課長	0.10 人	順調				
				実績		62 件	72 件	達成率		129.2 %	105.9 %									
					成果発表会の参加人数（累計）	目標	230 人	280 人	330人 (H28年度)					係長	0.15 人	順調				
				実績		250 人	296 人	達成率		108.7 %	105.7 %									

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた 施策の方向性	
					指標名等	現状値 (基準値)	H26年度	H27年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由および課題		
Ⅲ-3- (2)-② NPO、 企業、研究機関などの連携の構築	61	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	—	目標 — 件	実績 — 件	達成率 — %	5件 (H28年度)	3,000	2,671	—	3,470	課長 0.03 人	順調	NPOと企業、大学との交流会を予定どおり4回開催し、各団体間のネットワーク構築のきっかけとなったことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 NPOと企業等との協働件数や、NPOへの補助交付件数が目標を達成しており、NPO、企業、研究機関などとの連携の構築に資する事業を実施したと考え「順調」と判断。	引き続きNPOや企業等との交流会を実施するとともに、各団体が自主的に協働できるよう側面的に支援していく。	
	62	まちづくりステッピングアップ事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、地域の特性を活かした活動や地域の活性化に資する新たなまちづくり活動に対し、事業費の一部を補助する。	NPO等に対する補助交付件数（累計）	38件 (H21年度)	目標 213 件	243 件	実績 213 件	250 件	273件 (28年度)	5,965	5,604	5,606	1,220						課長 0.03 人
Ⅲ-3- (3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	63	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	203人 (H22年度)	目標 550 人	700 人	実績 639 人	929 人	850人 (H28年度)	744	718	838	8,300	課長 0.20 人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業の成果指標を達成しており、市民参加と協働のための仕組みづくりに寄与したと判断し「順調」とした。	多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、市とNPO等とが、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要であり、協働意識向上のための研修の充実、協働事例の情報発信に取組み、協働を進めるための人材育成に努める。また、引き続きNPOと企業等との交流会を実施するとともに、各団体が自主的に協働できるよう側面的に支援していく。
	64	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	—	目標 — 件	実績 — 件	達成率 — %	5件 (H28年度)	3,000	2,671	—	3,470	課長 0.03 人	順調					
Ⅲ-3- (3)-② 市民との協働を推進できる市役所づくり	65	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数（累計）	18法人 (H24年度)	目標 45 法人	60 法人	実績 47 法人	60 法人	75法人 (H28年度)	17,664	16,252	16,233	20,700	課長 0.30 人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業の評価指標は全て目標を達成しており、市民との協働を推進している評価し「順調」と判断。	市民との協働を推進するため、引き続き、きっかけづくりとなるセミナー等の充実、協働意識向上のための研修の充実、協働事例の情報発信に取り組んでいく。
					サポートセンター利用者数	18,362人 (H20年度)	目標 23,000 人	23,500 人	実績 23,127 人	23,623 人	24,000人 (H28年度)					係長 0.60 人					
66	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	203人 (H22年度)	目標 550 人	700 人	実績 639 人	929 人	850人 (H28年度)	744	718	838	8,300	課長 0.20 人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【課題】 市民との協働のまちづくりを推進していくためには、市民活動の新たな担い手づくりや、協働に対するさらなる理解浸透を図る必要がある。		
				収入増加団体数（累計）	3団体 (H26年度)	目標 3 団体	6 団体	実績 3 団体	6 団体	9団体 (H28年度)					係長 0.30 人					職員 0.40 人	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題	
IV-2-(2)-② ソーシャルビジネス創出の支援	67	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	203人（H22年度）	目標 550人 実績 639人 達成率 116.2%	700人 929人 132.7%	850人（H28年度）	744	718	838	8,300	課長 0.20人 係長 0.30人 職員 0.40人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数や収入増加団体数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各目標を達成している。特に収入増加団体数が目標団体数を達成していることからNPOの課題である資金調達力の向上に対する効果的な支援ができたと評価できるため、「順調」と判断。 【課題】 行政と対等に協働できる経営基盤や事業の企画実行力を持つNPOが少数である。	資金調達力の向上により経営面で自立を目指す団体に対して、セミナー等を開催するなど、引き続き側面的な支援を行っていく。	
	68	持続可能なNPO育成モデル事業	市民活動推進課	経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	収入増加団体数（累計）	3団体（H26年度）	目標 3団体 実績 3団体 達成率 100.0%	6団体 6団体 100.0%	9団体（H28年度）	1,457	1,009	1,692	4,650	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.20人	順調	収入増加団体数が目標を達成しているため「順調」と判断。				
IV-4-(1)-② 偉人・先人の顕彰	69	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	企画展の入館者数（単位：人）	10,741人（H23年度）	目標 22,000人 実績 26,564人 達成率 120.7%	22,000人 23,436人 106.5%	22,000人（H27年度）	23,125	22,919	20,218	12,625	課長 0.50人 係長 0.50人 職員 0.25人	順調	企画展開催回数（目標：4回、実績5回）と入館者数ともに目標を上回ったため「順調」と判断。				
	70	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究しを発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業の実施する。さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人（22年度）	目標 60,000人 実績 41,025人 達成率 68.4%	60,000人 46,278人 77.1%	入館者実績の増（毎年度）	12,812	10,933	11,935	23,250	課長 0.50人 係長 1.00人 職員 1.00人	順調	入館者数は目標を達成することができなかったが、昨年度より10%以上増加しており、また、企画展の満足度も概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 松本清張記念館の入館者数が目標に達していないが、対前年度比で約13%増加している。また、満足度も85%と高い水準を維持していることから「順調」と判断。 【課題】 施設の認知度を高め、これまで以上に市民が文化に接する機会の提供に努め、入館者数の増に繋げる必要がある。	入館者の増加につながるような情報発信や事業の企画に取り組む。	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H27年度		H26年度		人件費（目安）		H27年度				H29年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値（基準値）	H26年度	H27年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題			
IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上	71	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献（直接経済効果）	現状値（基準値）	100,000千円（H21年度）	目標	110,000千円	110,000千円	110,000千円（毎年度）	26,192	33,701	13,769	36,100	課長	0.40人	順調	成果指標として掲げた撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献（直接経済効果：目標110,000千円→実績106,909千円）、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度（目標60.0%→実績58.7%）ともに、概ね目標値を達成した。	順調	【評価理由】 映画等の撮影支援を通して、本市の知名度・都市イメージの向上や経済効果のほか、にぎわいの創出、シビック・プライドの醸成などの効果に現れている。 【課題】 今後は、本市の魅力を国内外に発信するため、①新たな観光客の獲得を見据え、海外作品の誘致に積極的に取り組むこと ②これまでの事業の成果を街のにぎわいづくりに活用していくこと ③映画も芸術文化の一つとして地域文化に根付かせていくことが重要と考える。	これまでの映画等の誘致の成果を活用し、街の魅力を市内外に発信するとともに、国外における本市の知名度アップやインバウンドの増加につなげるため、アジア諸国の映画、テレビドラマの誘致・支援にも本格的に取り組むことで「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドのさらなる確立に向けた取組みを強力に推進する。
						実績	105,980千円	106,909千円	60.0%	60.0%												
VI-1-(1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	72	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業	市民活動推進課	環境未来都市計画が掲げる目標を達成するため、NPOなどの提案団体と市が協働して取り組む事業に経費の一部を補助。	補助交付事業件数（累計）	現状値（基準値）	6件（H24年度）	目標	15件	20件	25件（H28年度）	4,954	4,887	4,707	3,775	課長	0.10人	順調	目標を達成しており、NPOの専門性が活かされた先進的な事業が実施されているため、順調と判断。	順調	【評価理由】 補助交付事業件数が目標を達成しており「順調」と判断。 【課題】 行政と対等に協働できるNPOが少数である。	協働の理解浸透を図る研修、成果発表会の開催、事例紹介等を通して、行政と協働できるNPOの育成に努める。
						実績	16件	22件	106.7%	110.0%												